

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	97 -	事業名	地域密着型介護サービス事業	担当部課	福祉部長寿課
------	------	-----	---------------	------	--------

基本情報	総合計画	基本方針	-	会計	7	介護保険特別会計
		分野別項目	-	款	2	介護保険給付費
		施策の進め方	-	項	1	介護サービス等諸費
	まちづくり 行程表	フラッグ	-	目	1	介護サービス費
		政策分類	-	大事業	3	地域密着型介護 サービス事業
	その他(関係法令、要綱等)		介護保険法			
事業開始の背景、経緯等		寝たきりや認知症の高齢者が急増する一方、核家族化や介護者の高齢化などにより、家族だけで介護を行うことが難しくなっている社会現象に対し、介護を社会全体で支えるための介護サービスを給付するため、平成12年度から介護保険制度が開始された。				

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 地域密着型介護サービスとして行われる、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(小規模特養)や認知症対応型共同生活介護(グループホーム)等に係る給付費について、支給するもの。				
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 要介護認定を受けている方				
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 介護が必要な状態になっても、介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。				
	事業を構成する事務事業	① 地域密着型介護サービス給付事業	縮小	④		
	② 特例地域密着型介護サービス給付事業	縮小	⑤			
	③		⑥			

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	決算	予算		387,119	423,075	549,656
決算					393,002	494,582	469,716	
人件費(B)	千円	決算		-	2,291	2,819		
総コスト(A)+(B)	千円	決算		-	496,873	472,535		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A サービス給付費	千円	目標	431,934	374,115	683,396	741,831	536,259
			実績	352,774	393,002	494,582	469,716	
	B		目標					
			実績					
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 3年に1度策定している介護保険事業計画において見込額を設定している。								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 国の制度であるため、各市町とも基本的に取組内容は同じ。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 介護サービスの種類によって、介護保険事業計画において見込んだ介護サービス給付費と実績値に差が出ているものがあるが、全体的に見ると長久手市はサービスが充実しており、要介護者に安心して介護を受けていただくという目標は達成できていると思われる。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護サービス給付費を事業毎に見込むが、実績との差が出ないように見込むことが難しい。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成31年度に高齢者等へニーズ等のアンケート調査を行い、平成32年度中に、次の介護保険事業計画を策定する中で、給付費の見込みを検証する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		地域密着型介護サービス事業									
番号	①	事務事業名	地域密着型介護サービス給付事業	款	2	項	1	目	1	大事業	3	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成12年度		終了（予定）年度		—						

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	要介護認定を受けている方に対し、地域密着型介護サービスとして行われる、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（小規模特養）や認知症対応型共同生活介護（グループホーム）等に係る給付費について、支給するもの。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	介護が必要な状態になっても、介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		387,019	422,975	549,556	537,307
		決算		393,002	494,582	469,716	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
①		地域密着型介護サービス給付費			469,716		千円
②							千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
サービス給付費	千円	目標	431,834	374,015	683,296	741,731	536,159
		実績	352,774	393,002	494,582	469,716	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護や認知症対応型共同生活介護等の利用があり、サービス費の支給を行った。 各月の利用件数合計実績：2,202件（ただし、2月、3月支払い分の件数については、国のシステムでの集計報告がまだのため未計上）							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

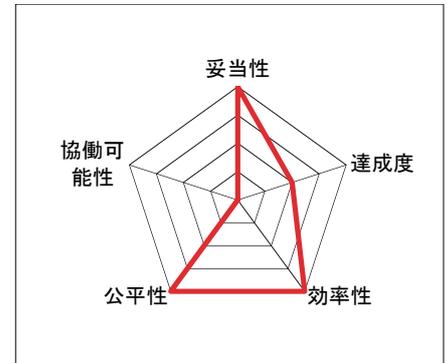
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
※新規行政評価対象
(何をどのような状態に改善したのか)
—

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	2
効率性	4
公平性	4
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
給付内容については、国制度によるものであるため特になし。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
3年に1度の介護保険事業計画の策定において、過去の給付実績や高齢者人口・認定者数の推計等から介護サービス給付費を事業毎に見込むが、実績との差が出ってしまった。

7. 今後の方向性

縮小

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。
看護小規模多機能型居宅介護事業所の整備を平成31年度を目処に進める。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		地域密着型介護サービス事業									
番号	②	事務事業名	特例地域密着型介護サービス給付事業	款	2	項	1	目	1	大事業	3	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成12年度		終了（予定）年度		—						

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	要介護認定を受ける前に緊急で介護サービスの利用が必要な方に対し、地域密着型介護サービスとして行われる、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（小規模特養）や認知症対応型共同生活介護（グループホーム）等に係る給付費について、支給するもの。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	介護が必要な状態になっても、介護サービスを受けることにより、安心して生活を継続できるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算	— —	100 0	100 0	100 0	100
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
①							千円
②							千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
サービス給付費	千円	目標	100	100	100	100	100
		実績	0	0	0	0	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
緊急でのサービス利用がなかったため、実績件数0件							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

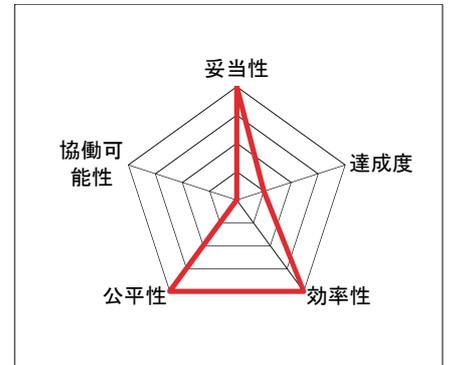
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
急速な高齢化に伴い、年々、介護サービスの利用者数は増加してきており、それに対応するために3年に1回、介護保険事業計画の見直しを行っている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
※新規行政評価対象
(何をどのような状態に改善したのか)
—

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	1
効率性	4
公平性	4
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
緊急時に国制度である介護保険サービスの給付費の支給をするものであるため、特になし。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
緊急時に国制度である介護保険サービスの給付費の支給をするものであるため、特になし。

7. 今後の方向性

縮小

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
平成29年度に、平成30年度から平成32年度までの3年間についての介護保険事業計画の策定を行ったため、この計画に基づき介護サービス給付事業を進めていく。